

江陵白樺

コールド代決へ

春季 高校野球

十勝支部予選

第4日は26日午後、帯広の森野球場でDブロックの準決勝2試合を行った。江陵は帯南商に8-1で八回コールド勝利を収め、白樺学園は帯三条に五回コールドの15-2と大勝した。江陵と白樺学園は大会最終日の7月1日の第2試合で、北北海道大会の代表権を争う。大会は27日から29日までの休養日を挟み、30日と7月1日に計4試合の代表決定戦を実施し、北北海道大会（7月14〜20日、旭川スタルヒン球場）の支部代表チームを決定する。（北雅貴、新井拓海）



【Dブロック準決勝・江陵―帯南商】江陵の右腕エース松下竜司はテンポ良く投げ込み、公式戦初勝利を飾る

対戦相手	スコア	試合時間
寄陽葉室追北合水工谷更農尾別陵田商条園	3-12	30分
緑柏	4-10	9:00
足帯帯芽鹿帯連清帯帯音帯広本江池帯帯白樺学園	8-13	11:30
南三	3-6	9:00
大	4-3	7:10
Dブロック	8-1	11:30
Dブロック	3-5	7:10
Dブロック	8-15	11:30

対戦相手	スコア
帯南商	8-1
江陵	0-2

◇Dブロック▽準決勝
▽三塁打||村田(江)
▽二塁打||沼澤2、小林(帯)田島(江)

エース松下が躍動 江陵

21カ月ぶりに公式戦のマウンドに上がった江陵の右腕エース松下竜司（3年）が躍動した。直球にカーブなどをテンポ良く投げ込み、一回に先制打を浴びて以降、七回途中まで15者連続で封じた。

8球で奪ったアウトのうち、内野ゴロ10、外野飛球谷本監督は「肘の使い方が

7を数えるなど、「特別速い球を投げて三振を奪うタイプではない」（谷本監督）。どうすれば投手として生き残りチームに勝利をもたらすかを考え、直球を生かす変化球を新たに覚えるなど努力した。

更別中央中では遊撃手。責点3と踏ん張った。期待されたが2年生からは右腕

投打がかみ合った江陵が快勝した。1点を追う三回先頭の佐藤の右前打と田島の四球、暴投で無死二、三塁に。松下の内野安打で追い付き、さらに1死二、三塁で並里の右前適時打で逆

守備は無失策と堅かった。全力疾走も実力及ばず 帯南商 「相手の実力が上だったとしか言えない。江陵は次につなげる気持ちが伝わってきた」。帯南商の川原夢輝（ゆめき）主将（3年）は冷静に振り返った。先発左腕の田丸誠也（2年）を四回途中で救援した吉澤佳祐（けいすけ・同

打安点振球	田浦井澤山林丸丸邊澤原失
400300	400300
332000	332000
220000	220000
311110	311110
000000	000000
311000	311000
100000	100000
200000	200000
31010	31010

打安点振球	上藤島下田里野村葉森
430111	430111
322010	322010
211103	211103
411102	411102
311101	311101
100000	100000
411110	411110
311100	311100
31001	31001

球数安振球責	田丸	吉澤	田丸
30128310	968145	732252	172011
回者球数安振球責	丸3%21	澤2%15	丸1%7
田丸	829	895	501

代表決定戦で白樺学園と対戦する。昨冬から「白樺学園に絶対勝つんだとやってきた。ベンチ外も含めた全部員49人で戦い、スタルヒンに行く」と力強く言い切った。